

プロイセンの建築に関する考察

終身会員 ○田 中 辰 明*

プロイセン	ドイツ帝国	ベルリン
ポツダム	フリードリッヒ 2 世	シンケル

1. プロイセン

プロイセンの起源は、13 世紀のドイツ騎士団の東方植民地化にさかのぼる。当時、ドイツ騎士団はバルト海沿岸の地域を征服し、その領土を「プロイセン」と呼んだ。16 世紀にはこの地域の領主がプロイセン公国を統治し、次第に強力な勢力を持つようになった。1675 年のフェールベルリンの戦いはプロイセンのフリードリッヒ・ヴィルヘルム選帝侯とスエーデン軍の戦いで、プロイセン軍が勝利した。この勝利により、プロイセンが欧州で認められる存在となった。プロイセン王国は 1701 年にフリードリッヒ・ヴィルヘルム 1 世の子息であるフリードリッヒ 2 世（フリードリッヒ大王）の即位によって確立された。フリードリッヒ 2 世は軍事改革と領土拡張を進め、プロイセンを欧州の強力な大国へと成長させた。プロイセンはオーストリア継承戦争（1740-1748）や七年戦争（1756-1763）などの戦争で成功をおさめ、その軍事的優位を確立した。19 世紀半ば、プロイセンはドイツ統一の中心的な役割を果たした。プロイセンはオーストリアと戦争を経てドイツ連邦を形成し、最終的には 1871 年にドイツ帝国が成立した。この時、プロイセン王ヴィルヘルム 1 世がドイツ皇帝に即位し、プロイセンがドイツの中心的な国家となった。しかしプロイセンは第一次世界大戦で敗戦し、ドイツ帝国も崩壊した。1919 年にヴェルサイユ条約が締結され、ドイツ帝国の解体と共にプロイセンも廃止された。プロイセンの領土は現在のドイツ、ポーランド、ロシアなどの国々に分割された。プロイセンは軍事的な影響力だけでなく、教育や行政の改革にも貢献した。特に教育制度や官僚機構の整備が進められ、これらは後に多くの国々で模範となった。プロイセンの影響は、単に軍事や政治だけでなく、近代国家の発展においても重要な役割を果たした。

2. バロック様式とロココ様式

プロイセンでは、特に 17 世紀から 18 世紀初頭にかけて、バロック様式とロココ様式が支配的であった。特にフリードリッヒ 2 世（大王）の時代には、バロック建築が多くみられる。バロック建築は、壮大さ、豪華さ、動きのある曲線などが特徴である。ロココ様式は、より装飾的で軽やかな要素を持ち、特に宮殿や教会の内装に見られた。

代表的な建物：

ポツダムのサンスーシー宮殿：フリードリッヒ II 世が建てたバロック・ロココ様式の宮殿



図-1 サンスーシー宮殿、ポツダム

3. 新古典主義

18 世紀後半から 19 世紀初頭にかけて、プロイセンでは新古典主義が流行した。新古典主義はギリシャやローマ建築の古典的要素を取り入れ、シンメトリーと規則正しさが特徴である。この様式はプロイセンの国家的なアイデンティティを象徴されるものとされた。

代表的な建物：

・ベルリンのブランデンブルグ門：新古典主義の象徴的な建物で、プロイセンの国家的威信を表現している。



図-2 ブランデンブルグ門、ベルリン

4. 鉄とガラスを用いた建築

19 世紀に入ると産業革命の影響で鉄やガラスなどの新

しい建築材料が使用されるようになった。特に鉄骨構造やガラスを大量に使用した建物が現れるようになり、産業や商業施設に多く見られる。ドイツ鉄道の大きな駅舎にも使用された。この時期のプロイセン建築は工業化と近代化の象徴でもある。

代表的な例：

ベルリンの鉄道駅、ツォーロギッシャガルテン駅、アレキサンダープラッツ駅など

5. プロイセンの城と宮殿

プロイセンは軍事国家として知られており、城や宮殿が数多く建設された。これらの建物は王政を象徴し、威厳と権力を示すために壮大なデザインがなされた。

代表的な例：

1. サンサーシ宮殿 (Schloss Sanssouci)
 - ・ 所在地：ポツダム
 - ・ 建設年：1745 年-1747 年
 - ・ 特徴：フリードリヒ大王の夏の離宮で、ロココ様式の優雅な装飾が施された小規模な宮殿。周囲には広大な庭園や中国茶館などがあり、「プロイセンのヴェルサイユ」とも称される。
2. ノイエ・パレ (Neues Palais)
 - ・ 所在地：ポツダム (サンサーシ公園内)
 - ・ 建設年：1763 年-1769 年
 - ・ 特徴：フリードリヒ大王が七年戦争後に建設したバロック様式の壮麗な宮殿。多数の客間や劇場を備え、国賓の接待にも使用された。



図-3 ノイエ・パレー、ポツダム

3. シャルロッテンブルク宮殿 (Schloss Charlottenburg)
 - ・ 所在地：ベルリン
 - ・ 建設年：1695 年-1713 年 (拡張は 18 世紀中)
 - ・ 特徴：フリードリヒ 1 世の妃ゾフィー・シャルロッテのために建設された宮殿。フランスの影響を受けたバロック・ロココ様式で、ベルリン最大の宮殿。
4. オラニエンブルク宮殿 (Schloss Oranienburg)
 - ・ 所在地：オラニエンブルク (ベルリン北部)

お茶の水女子大学名誉教授

- ・ 建設年：17 世紀
- ・ 特徴：フリードリヒ・ヴィルヘルム大選帝侯の妃イーゼ・ヘンリエッテのために建設。プロイセンで最も古いバロック宮殿の一つ。

5. ツェツィーリエンホーフ宮殿

(Schloss Cecilienhof)

- ・ 所在地：ポツダム
- ・ 建設年：1914 年-1917 年
- ・ 特徴：最後のドイツ皇太子ヴィルヘルムの住居として建設。チューダー様式のデザインが特徴で、1945 年のポツダム会談の舞台となったことで有名。

6. 官庁建築と市民建築

19 世紀後半には、官庁建築や市民建築の分野でも新しい方向性が見られた。プロイセンでは国家と行政機関を象徴するような力強さが求められた。この時期の建築は、威厳と同時に機能性が重視され、官庁や公共施設に適用された。

代表例：ベルリンの帝国議会 (ライヒスターグ)：巨大で威厳ある建築として新古典主義的特徴を持ちながら、近代的な要素が取り入れられている。

19 世紀に入ると産業革命の影響でベルリンなど巨大都市に多くの工場が建設され、地方から職を求め労働者がベルリンなどに集まった。しかし労働者の住宅環境は極めて脆弱で、日照、風通し、緑の配置などは考慮されていなかった。当時の労働者の生活を多数スケッチとして残したハインリッヒ・チレは労働者の住環境を描いている。

7. 庭園と公園

プロイセンでは、特にフリードリヒ 2 世がかかわった庭園設計が注目される。サンサーシ宮殿周辺の庭園では形式的で対照的なデザインが多く、自然と人間の秩序を調和させることが重視された。

結論

これらの特徴はプロイセン建築が政治的な力、文化的な繁栄、技術革新を反映していることを示す。ドイツの産業革命後、ベルリン等大都市に仕事を求めて労働者が多数押しかけた。しかし労働者の住環境は劣悪であった。

参考文献：

1. Geo Epoche Preussen 1701-1871
2. Preussen Versuch Einer Bilanz rororo
3. Preußisches Lesebuch Bilder-Texte-Dolumente UNIPART
4. Karl Friedrich Schinkel, Berlin, Rembrandt Verlag

Ochanomizu University